

全天候型施設の基本方針について

1 全天候型施設活用の検討にあたって

(1) 検討の目的

芦屋港活性化基本計画において、港湾エリアへの観光集客機能として、芦屋町の観光特性である冬季の集客力向上に資することを考慮した「全天候型施設」の整備（芦屋町事業）を掲げている。また、その活用方法のひとつに、芦屋町のキラコンテンツである砂像を展示することを想定し、イベントそのものの集客力向上や、来訪者増による経済効果に寄与するものとし、その他にも各種イベント会場としての一般利用を想定し、天候に影響を受けない施設活用を想定している。しかし、具体的な活用方法や運営方法など、ランニングコストや収益も考慮した検討を踏まえる必要があるとなっている。

今回、福岡県によるポートパーク及び海釣り施設の整備が決定したことを踏まえ、全天候型施設の活用方法の検討を行うもの。

(2) 検討の方法

芦屋港活性化基本計画で示した活用方法のひとつである、砂像の展示（3ヶ月程度の提示。それ以外はイベント会場としての一般利用など。）について、既存イベントである「あしや砂像展」の現状と課題の整理、集客効果や今後のあり方を整理したうえで、砂像展示の可能性を調査検討した。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きく社会経済環境が変化しているため、芦屋町の観光動向の分析と併せて、コロナ禍における観光動向の状況について整理した。

そのうえで、活用方法を砂像に限定せず、観光集客や日常使いとしての交流機能を考慮した幅広い視点から、集客効果及び芦屋町への波及効果を生じる機能について、周辺地域における施設分布状況やwebアンケートなどにより絞り込みを行った。

2 検討の経緯

○職員ワーキング会議（芦屋港活性化職員プロジェクト）

- ・第1回職員ワーキング会議（令和3年1月25日）
- ・第2回職員ワーキング会議（令和3年2月12日）
- ・第3回職員ワーキング会議（令和3年3月19日）

○エリアマネジメント専門分科会

- ・第1回会議（令和2年12月16日）
- ・正副会長会議（令和3年3月31日）
- ・正副会長会議（令和3年4月13日）
- ・第2回会議（令和3年4月27日）

○ヒアリング、事例調査

- ・砂像彫刻家ヒアリング（令和2年12月3日）
- ・鳥取砂丘砂の美術館事例視察（鳥取市）（令和2年12月3日）
- ・芦屋町商工会工業部会、芦屋町砂像連盟ヒアリング（令和3年2月26日）
- ・芦屋町観光協会、観光あしや協議会、芦屋町商工会ヒアリング（令和3年3月3日）

○WEBアンケート調査

九州圏、山口県、広島県、岡山県居住者を対象にサンプル数1,000を実施
（実施期間：令和3年2月25日～3月1日）

3 検討結果の概要

（1）芦屋港活性化基本計画の検証結果の概要

- 芦屋町の観光動向やWEBアンケート調査の分析により、「あしや砂像展」の認知度及び来訪意向が高く、集客力をもつ独自のコンテンツである。あしや砂像展の課題を改善することで、町への経済効果が期待できる。
- 砂像関係者へのヒアリングや鳥取砂丘砂の美術館の調査分析により、砂像の入れ替え時の費用が現在のイベントよりも大きく、保管場所も必要となるため、短期間での展示では収益性が非常に悪く、全天候型施設を多目的に活用するよりも、通年の砂像展示（常設展示）として活用することが効果的。

（2）観光集客施設として求められる機能検討結果の概要

- 芦屋港の周辺施設（機能）と異なる独自性を有し、通年で来訪者確保ができる観光集客施設として、維持管理費用も含め検討すると、砂像の屋内常設展示施設、もしくは、サイクルステーション施設（施設規模は縮小）の導入が望ましい。

(3) コロナ禍における社会経済環境変化の検証結果の概要

- コロナ禍において、町内関係団体のヒアリングにより、屋外アクティビティ（釣り、サイクリング、海浜公園）の利用が増加していることがわかった。一方で、観光施設や宿泊施設、公共交通の利用状況により、来訪者の動向が大きく変化していることがわかった。
- コロナ禍により、全国的に民間事業者の投資意欲の低下が著しく、参入意向が不透明な状況である。

4 全天候型施設の基本方針

上記検討結果により全天候型施設の基本方針を以下のとおりまとめた。

- 全天候型施設の活用は「砂像」の屋内常設展示（砂像展示専用施設）を基本とする。ただし、コロナ禍により、社会経済環境が大きく変化し、先が見えない状況下で、施設の整備を決定するには非常にリスクが大きいため、コロナ禍における芦屋港エリアの詳細な観光動向ニーズ調査を行うとともに、既存港湾施設（上屋）活用における官民連携による導入機能の更なる調査を行ったうえで、慎重に方針を決定する。
- 芦屋港周辺エリアでは、コロナ禍における屋外アクティビティのニーズの高まりによる「サイクル」機能のポテンシャルが十分にあるが、来訪者の観光動向やニーズ（事業者の意向ニーズ含む）把握が必要不可欠である。このため、サイクル機能の導入も視野に入れ、芦屋港周辺エリアに集客効果が高く、費用対効果のある活用を検討する。

5 今後のスケジュール

- 5月13日（木） 芦屋港活性化推進委員会（推進委員会の意見とりまとめ）
- 5月中旬 芦屋町へ答申
- 5月下旬 芦屋港活性化推進本部会議（芦屋町の方針決定）
- 6月中旬 芦屋町議会報告
- 7月以降 芦屋港周辺エリア観光動向調査